

■第9回 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 会議録■

日時 : 平成21年2月5日（木）18時～20時
場所 : 武蔵野総合体育館 視聴覚室
出席者 : 委員 本村清人、赤萩恵子、和田明子、後藤信義、島本康子、萱場和裕
欠席委員 : 河上一雄、本郷伸一、守屋るり子、大町洋、古矢武士、茨木信
: 庁内ワーキングチーム 大久保宏、鈴木早代子
事務局 : 担当課職員 西川和延（生涯学習スポーツ課副参事）、茂木孝雄（生涯学習スポーツ課
スポーツ振興係長）
: コンサルタント 黒崎晋司・木藤直隆（株式会社 地域計画建築研究所）
傍聴人 : 2人

－ 議事要旨 －

□開会

□資料確認

本日の次第、「資料1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案（タタキ台第2次案）について」「資料2 第8回策定委員会「武蔵野らしさ」のキーワード まとめ」「資料3 武蔵野らしさのイメージ」「資料4 関係団体&庁内ワーキング ヒアリング 「武蔵野らしさ」&キャッチフレーズ まとめ」「地域に根ざした食育コンクール 2008 親子食育ウォーキング教室 優良賞の受賞報告」「平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【要約版】」「第8回策定委員会会議録」

□会長挨拶

委員長：本日で策定委員会も9回目をむかえ、だいぶ大詰めになってきた。本日もご意見をいただきながら内容を詰めていきたい。ご協力のほどお願いしたい。

□議事

(1) 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案（タタキ台第2次案）について（資料1）

事務局：「資料1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案（タタキ台第2次案）」について、主に第8回策定委員会でいただいたご意見を踏まえて修正した点や新たに追加した箇所を説明した。

- ・前回の第8回策定委員会に提出した「素案（タタキ台案）」から削除した文言を取り消し二重線で表記し、加筆した箇所を波線の下線表記とし、全体的に文言の整理をした。
- ・前回の策定委員会のなかで協議した「武蔵野らしさ」のキーワードを踏まえて「IV 武蔵野市におけるスポーツのあり方」のところで新たに「武蔵野らしさのイメージ」という項目を追加し、キーワードを整理したうえで図を用いながら「武蔵野らしさ」を表現した。
- ・「基本方針」「実現化方策」で章を分け、章ごとの最初のページにそれぞれの施策の体系図を入れ、分かりやすくなるよう工夫した。
- ・基本施策ごとに、「今後の取組」という欄を設け、事業については、「既存の事業」と

「あらたに考えられる事業」という形で整理した。

- ・「Ⅵ 実現化方策」の「2 連携づくり」の基本施策「市役所内のネットワークづくり」と基本施策「市、振興事業団、体協、関係機関等の連携」では、参考として文章だけでなくそれぞれ分かりやすいように図で表した。

委員長：庁内の策定委員会ワーキングチームの意見も踏まえて修正が入っており、全体的にだいたい読みやすくなり、言葉の使い方なども整理されてきたように思う。さらに良い内容となるよう本日も協議をしていきたい。また、副委員長については本日欠席との連絡があり、ご報告させていただきたい。協議はページごとに進めていくので、ご意見等ありましたらその都度お願いしたい。

委員長：4 ページの「Ⅲ スポーツ振興における現状と課題」の「2 年代に応じたスポーツのニーズ」の文章のなかで、「子どもの頃からスポーツに親しむことは、成長段階における発育にとって重要であり」という文章があるが、以前は「発育発達」であった。「発育」は、身体的なことを言い、「発達」は内面的なことを言うと思う。前後の文章からすると身体的なことだけに限らないので「発育」も含む「発達」を残したほうが良いと思う。

11 ページのスポーツの定義について、最後の文章が「スポーツとしてとらえます。」となっているが、「e スポーツ」なども含めてスポーツととらえようとしていることから「スポーツとして広くとらえます。」としたほうが良いのではないかな。

委員：13 ページ「3 基本理念」の最初の文章に「地域での交流といった」という少し話し言葉のような表現があるが、何か言葉が置き換えられると良いと思う。

委員：18 ページ以降の「Ⅴ 基本方針（4 つの柱）」「Ⅵ 実現化方策」のなかで、今回新たに「今後の取組」の表が入っていると思う。その表が入った意味や目的など説明していただきたい。10 年計画のなかで前半の 5 年と後半の 5 年で分けているのだと思う。

事務局：ご指摘のとおり、今回、新たに「今後の取組」を加えている。個々の事業ごとにお示しするのは非常に難しく、基本施策ごとに取り組むべき状態をお示しさせていただいた。10 年計画の前半にあたる平成 21 年度から平成 25 年度までは、「既存事業」と新たに考えられる「新規事業」についてお示しし、平成 26 年度以降は中間年での計画の見直しも踏まえた表現の仕方をしている。

委員：「今後の取組」は、基本施策ごとにどのような違いがあるのか。

事務局：例えば、26 ページの基本施策「子どもが親しめるプログラム等の充実」と 31 ページの基本施策「高齢者向けのプログラム等の充実」の「今後の取組」の前半の平成 21 年度から平成 25 年度までの欄をご覧いただきたい。26 ページでは、「既存の事業」について「事業の整理⇒事業間での連携⇒実施」としており、31 ページでは、「既存の事業」について「事業内容の検討⇒効率的な展開⇒実施」としている。

「事業間での連携」と「効率的な展開」の違いとして、26 ページの基本施策「子どもが親しめるプログラム等の充実」では、取り上げている事業がそれぞれ関連する内容であることや、所管課が多岐にわたっていることなどを踏まえて上手く連携していけると良いと考えたことから「事業間の連携」としている。31 ページの基本施策「高齢者向けのプログラム等の充実」は、「既存の事業」が多くあるが所管課はいくつかに限られている

ので、それぞれの課のなかでの連携や組み合わせなどによって上手くできないかと考え、「効率的な展開」という表現にしている。似たような表現もあると思われるが、庁内で事務事業の見直しもある関係上なかなか事業ごとには難しいという話があり、施策のレベルでおおよそその基本的な方向性を出していくべきではないかとの判断からできる範囲でお示しさせていただいた。

委員：10年計画ではあるが、前半と後半を分けて前半の平成21年度から平成25年度までの到達目標のようなことも込めて記載していると考えれば良いか。

事務局：そのように考えていただきたい。

委員：37ページの基本施策「ステップアップするためのプログラム」では、「効果的な展開」という表現があるがどのような意味か教えてほしい。

事務局：37ページの基本施策「ステップアップするためのプログラム」では、「新規事業」で「効果的な展開」という表現を使っており、「新規事業」のため、実際に効果をあげることができるようにとの思いも込めた表現としている。

委員長：「PDCAサイクル」で考えると、最初の5年が「Plan（計画）」「Do（実施）」となり、後半の5年が「Check（点検）」「Act（改善）」といった趣旨でとらえれば良いのではないか。

「既存の事業」との関連性から、今後の方向性を表す意味でも「今後の取組」欄のようなものがないとバランスがとれないようにも思われる。

委員：21ページの例示欄は、本文のなかで先に出てくる例示を前にもってきて記載したほうが良いと思う。

委員：ページにかかわらず、「既存の事業」のなかで現況の欄をかなり細かく記載しているが、10年間の計画のなかでここまで細かく載せる必要があるのかどうか。詳細に記載しているのでボリュームも増えてきていると思う。

事務局：ある程度、事業の規模などが現況で分かると良いと考え記載している。ご指摘のように、10年後には、状況が変わることも考えられるため詳細に記載する必要があるかという話もあると思う。どの程度の表現とするかももう一度検討させていただきたい。

委員長：これまでの策定委員会のなかの意見で、現状がどうなっているのかという話があった。逆にこれだけ詳細に記載されているので10年後の評価にもつながると考えることもできると思う。ただ、確かにボリュームがあるので少し整理をしたほうが良いとも考えられる。

委員長：39ページの基本方針「3 既存資源の有効活用」のなかで本文に出てくる「総合型地域スポーツクラブ」の説明を例示欄で示しているが、要は何であるのか要約したポイントを説明したほうが良いと思う。ポイントとしては、「多種目である」「多世代が参加できる」「多趣向である」「受益者負担である」ということではないかと思われる。もう少し端的に補足する文章で表現したほうが分かりやすいと思う。

委員：58ページの基本施策「市民が有するスポーツ情報の収集・整理」の本文のなかで、「子どもの頃からの昔遊びなど（「竹馬」や「缶蹴り」など）」という文章がある。「缶蹴り」は、一時期、道端などですると蹴った缶が道路に飛んでくるので危険といった話もあり、やらないようにと言われた時期があったように思う。例えば、「鬼ごっこ」とかのほうが良いのではないか。

事務局：「鬼ごっこ」に修正させていただきたい。

委員長：情報提供に関する 59 ページの基本施策「市民ニーズに応じた情報の整理・発信」のなかで、「手軽に使いやすい情報誌について検討するなど」という文章があるが、情報提供としては、ホームページの充実も必要ではないかと思う。

委員：関連して、56 ページの実現化方策「1 情報提供の充実」の本文に「情報提供の仕方についても改善していきます。」という文章がある。どのように改善するのかをもう少し記述できないか。また、ホームページの充実とともに、情報誌のようなものもやはり必要なのではないかと思う。

事務局：ホームページの充実についても盛り込んでいきたい。また、56 ページの「情報提供の仕方についても改善していきます。」という文章は、実現化方策「1 情報提供の充実」の大きな内容として記述している部分である。具体的には、それ以降の各基本施策のなかで記述させていただいている。

委員長：60 ページの基本施策「誰にでも分かりやすい情報提供」のなかで「スポーツに接する機会の心理的な障壁をできるだけ取り除く」という文章がある。心理的な障壁を取り除くのは難しいことなのではないか。ここでは誰にでも分かりやすい情報提供のことについて説明すれば良いと思うので、文章の前後の関係でその部分だけ省いても良いのではないか。事務局でご検討いただきたい。

委員：この部分は、「誰にでも分かりやすい」という表現のなかでその趣旨も踏まえているように思う。

委員長：64 ページの基本施策「市役所内のネットワークづくり」と 65 ページの基本施策「市、振興事業団、体協、関係機関等の連携」では、新たに図を掲載しているが、事務局で何かこの図などについて説明があればお願いしたい。

事務局：64 ページの基本施策「市役所内のネットワークづくり」では、庁内でどのような横断的なネットワークが形成されるのか文章だけでは分かりにくく漠然としているという話があったことからお示しさせていただいた。例として、構成と役割という形で表している。構成としては、主な関係各課をあげ、事務局は生涯学習スポーツ課であるとしている。役割については、関係各課がそれぞれの課の事業に取り組むこととは別に、このスポーツに関連したネットワークのなかで検討すること、意見交換することの内容を役割としてあげている。具体的には、スポーツ振興計画の事業の検討、横断的な連携などスポーツ振興に関する効果的な事業の検討、スポーツ振興に関する情報共有をあげている。例えば、情報共有で言えば、大きなイベントがある場合に関係各課で一緒に取り組むというようなことも考えられる。横断的な仕組みについて、文章だけでは読み手になかなか伝わらないのではとの考えから記載させていただいた。

委員長：ここまでページごとに見てきたが、全体をつうじて何かありましたらご意見いただきたい。

委員：個々の基本施策には「①」などの番号が示してあるが、これだけでは、どの基本方針や実現化方策に該当する基本施策なのか分かりにくいと思う。目次との関係、項目の数字の使い方など全体として階層構造が分かるよう読みやすく工夫する必要があると思う。「基本方針」と「実現化方策」、「施策の考え方」「基本施策」に事業も含めると 4 段階で構成されているので、もう少し分かりやすくできると良いと思う。

委員長：あまり細かく数字を入れていくのも読みにくくなるので工夫が必要だと思う。

事務局：庁内でも議論になった部分であるので、もう少し見やすいように整理したい。

委員：「ノンブル（各ページの前後関係を表す数字などで、開いているページが何章のどこを見ているか分かるように示したもの）」をふれば良いと思うがどうか。

事務局：「基本方針」や「実現化方策」ごとのレベルで「ノンブル」をふるよう整理したい。

（2）武蔵野らしさ・キャッチフレーズについて（資料2、資料3、資料4）

事務局：「資料1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案（タタキ台第2次案）」の12ページとともに、「資料2 第8回策定委員会「武蔵野らしさ」のキーワード まとめ」「資料3 武蔵野らしさのイメージ」「資料4 関係団体&庁内ワーキング ヒアリング 「武蔵野らしさ」&キャッチフレーズ まとめ」について、主に以下の内容を説明した。

- ・「資料2 第8回策定委員会「武蔵野らしさ」のキーワード まとめ」は、前回第8回策定委員会が出された「武蔵野らしさ」のキーワードを分類整理してまとめた。
- ・「資料3 武蔵野らしさのイメージ」は、資料2の「武蔵野らしさ」のキーワードとともに、これまでにおこなった関係団体のヒアリングや庁内の策定委員会ワーキングチームのヒアリングをつうじて出された「武蔵野らしさ」の内容を加えて、分類整理した。
- ・「資料4 関係団体&庁内ワーキング ヒアリング 「武蔵野らしさ」&キャッチフレーズ まとめ」は、関係団体や庁内の策定委員会ワーキングチームのヒアリングで出された「武蔵野らしさ」や「キャッチフレーズ」に関するご意見を掲載した。
- ・資料2、資料3、資料4を踏まえキーワードを整理したものが、「資料1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）素案（タタキ台第2次案）」の12ページにある「2 武蔵野らしさのイメージ」である。
- ・資料1の12ページにある「2 武蔵野らしさのイメージ」では、これまでに出了れた「武蔵野らしさ」を5つに分類し、キーワード化した。それらの分類をまとめたものが、「質の高い多様性のあるまち」という言葉で、具体的にどのようなことなのかを4つの文章で解説した形とした。
- ・この「武蔵野らしさのイメージ」を踏まえ、施策を検討し、計画を定めたという形になっている。
- ・今回、関係団体として、サッカー連盟（少年サッカー）、水泳連盟、スキー連盟、軟式野球連盟、バスケットボール連盟、体育協会と個別にヒアリングをおこなった。

委員長：「武蔵野らしさのイメージ」は、このスポーツ振興計画につながっているという視点で具体的に読み込んでいけば良いと思う。

事務局：「武蔵野らしさ」については、策定委員会でのワークショップやヒアリングから多くのご意見をいただいた。それらを大きな概念で少しずつしぼって整理している。そういう作業のなかで、左側の4つの楕円形の部分は、「人」に関するイメージ、「地域」に関するイメージ、「地形やみどり」などに関するイメージ、「スポーツ」に関するイメージごとに整理している。それぞれの4つの楕円形の重なる部分には、重なる位置に入りそうなキーワー

ドを入れており、4つの楕円形がそれぞれ関連していることを表している。この4つの楕円形全部に関連する「まちのイメージ」を表現したものが大きな縦長の楕円形で右側に示している。

これらを一言で「質の高い多様性のあるまち」としており、その解説を4つの文章で説明している形になっている。

この「武蔵野らしさのイメージ」がどこから出てきたかと言えば、策定委員会でのワークショップやヒアリングをつうじて出されたご意見をもとに事務局で整理をさせていただいたということである。

この「武蔵野らしさのイメージ」が計画にどのようにつながるのかということが大事であり、それぞれの施策には、この「武蔵野らしさ」が散りばめられていると考えている。例えば、「人」という視点でみると「高齢者が元気なまち」ということと、「教えることから始めるスポーツ」という基本施策は結びついていくものと思われる。

「地域」という視点では、「地域ごとに個性のあるまち」と「スポーツによる地域の魅力づくり」という基本施策と結びつくことが考えられ、「地形やみどり」などに関しては、「歩きや自転車で楽しく回ることのできるまち」と「身近な公園や道の活用」という基本施策などが結びつくと考えられるのではないかと。

委員：「地域ごとに個性があるまち」というよりは「地域ごとにまとまりがある」というほうが良いように思われる。

事務局：「地域ごとにまとまりがある」という表現に修正させていただきたい。

委員長：次のキャッチフレーズも含めて自由にご発言いただきたい。

委員：この「武蔵野らしさのイメージ」を計画のなかに入れること自体は非常に賛成である。

事務局：他の市区町村のスポーツ振興計画では、このような記述は見受けられないので、「武蔵野らしさ」にこだわっていきたいと考えている。

委員長：タイトルが「武蔵野らしさのイメージ」とだけあるので、何のためにあるのかということをもう少し表現した内容にするほうが良いと思う。例えば、「施策の体系につながる武蔵野らしさ」のようなタイトルも考えられる。

また、「市民意識が多様なイメージ」であれば「人」、「地域ごとに個性のあるまち」であれば「地域」というように、左側の4つの楕円形のイメージを端的に表現することで、何をよりどころにそれぞれのキーワードが出てきているかを表現できると良いと思う。

さらに注意して見てみると、左側の4つの楕円形と、右側の「まちのイメージ」の大きな楕円形にあるキーワードは中身が同じようなものもある。右側の全体にかかわる楕円形を4つの楕円形のなかに吸収して、「質の高い多様性のあるまち」とその解説をもっと分かりやすく表現したほうが整理されるのではないかと。

事務局：そのような方向で修正させていただきたい。

委員：右側の「まちのイメージ」に関する楕円形のなかに「市内の施設や人的資源で充足できるまち」というキーワードがあるがこれはここまで言い切れないのではないかと。

事務局：削除させていただきたい。

委員長：左側の4つの楕円形のうち「歩きや自転車で楽しく回ることのできるまち」と「スポーツを楽しみ、いろんなスポーツができるまち」の重なる部分にあるキーワードが「野外活

動が盛んなイメージ」というのは少し違うように思うので再度検討してほしい。

委員：右側の「まちのイメージ」に関する楕円形のなかにある「高齢化が進むまち、学生の多いまち」の「高齢化が進むまち」という表現はあまり良くないように思われる。

事務局：基本的には、右側の「まちのイメージ」に関する楕円形は削除し、例えば、「文化、音楽があるまち」などの現状で左側の４つの楕円形のなかに入っていない内容のキーワードは、４つの楕円形のなかに組み込んでいきたいと考えている。

委員長：その他ご意見ありましたら全体をつうじてお願いしたい。

委員：45 ページの基本施策「地域スポーツの担い手づくりの充実」については、確かに重要な内容なので、もう少し具体的に何か記述があると良いと思うがどうか。

委員：ここでは、「あらたに考えられる事業」として想定しているものが具体的なことになっていくのではないかな。

委員：地域の子どものスポーツ（少年野球など）に関する指導者の方々に、運動生理学なども含めてもっと指導者としての力をつけていくことができるよう補完していくことも考えられるのではないかな。

また、市内にいる人材をどのように活かしていくことができるかということについて、もう少し記述できると良いと思う。

委員長：検討課題として残させていただきたい。

それでは、これで本日の協議を終了したい。今回の策定委員会で出た意見を踏まえ事務局でさらに良いものとなるよう修正いただきたい。

(3) その他

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。本日で策定委員会も第 9 回をむかえた。次の第 10 回の策定委員会が最終回となるので、今回は、修正部分を表示せず、最終案として完成品という形でお示ししたい。

また、本日も多くのご意見をいただいたが、後ほど気づいたことなどありましたら、来週いっぱいまでにご意見をいただければと思っております。

委員長：今回は、この策定委員会として教育委員会に報告する最終の形を確認するということだと思う。

本日はこれで終了いたします。

次回、第 10 回策定委員会の日程 2 月 24 日（火）

・会議 18：00～20：00（会場 武蔵野総合体育館大会議室）

以上